

57 織物のしわの異方性について（第2報）

京都女子大学 ○北田 総雄
横超 秀子

前報では、構成糸の撚りによる捩れの理論について述べ、紡績糸で織られた各種の平織物について、種々の斜め方向に折り曲げた場合、織物の皺に異方性のある事を明らかにし、上記の理論の適応し得る事を認めた。第2報ではフィラメント平織物について実験し、皺の異方性について調べ、併せて捩れの理論の適応性を考察した。